

【本件リリース先】

文部科学記者会、科学記者会、
広島大学関係報道機関

NEWS RELEASE



広島大学

広島大学広報グループ
〒739-8511 東広島市鏡山 1-3-2
TEL : 082-424-3701 FAX : 082-424-6040
E-mail: koho@office.hiroshima-u.ac.jp

平成 30 年 7 月 12 日

平成 30 年 7 月豪雨で発生した土砂崩れと、河川から土砂が瀬戸内海に流れ込んだ状況を、豪雨直後（7 月 9 日）に撮影された衛星画像を基に解析しました

広島大学大学院工学研究科の作野裕司准教授（リモートセンシング学）の研究グループは、西日本を襲った平成 30 年 7 月豪雨災害直後の 7 月 9 日に、米国の地球観測衛星ランドサット 8 号と日本の気象衛星ひまわり 8 号 によって撮影された衛星画像を入手しました。

広島県南部を撮影したランドサット 8 号の画像を基に、15mの大きさまで識別できるように処理した結果、河川から瀬戸内海に大量の土砂が流れ出たことが判明しました。また、各市町を拡大してみると、被害が大きかった坂町周辺では JR 呉線の水尻駅の裏山が大きく崩れ、土の部分が筋状にむき出しになっている様子が確認されました。

さらに、市町の中心部に流れる河川の色が黄色に変色、海の沖に勢いよく流れ出ている様子も認められました。土砂の流出範囲は福山市の芦田川河口から約 10 キロ、呉市の黒瀬川河口から約 5 キロに及んでいました。

一方、ひまわりの合成画像からは、九州、中国、四国、近畿の海岸線に沿って黄色く変色した海域が広がっており、豪雨により、広範囲にわたって河川を通じて大量の土砂が海に流出したことが分かりました。

【衛星画像の詳細については、本学公式HPの下記 URL をご覧ください】

→ <https://www.hiroshima-u.ac.jp/news/46300>

【お問い合わせ先】

広島大学大学院工学研究科輸送・環境システム専攻
准教授 作野 裕司
TEL : 082-424-7773
FAX : 082-424-7773
E-mail : sakuno@hiroshima-u.ac.jp

発信枚数：A4版 1枚（本票含む）